



三中だより

中野区立第三中学校

第11号(最終号)

平成30年3月22日発行

受け継いだ伝統を伝説へ

校長 齊藤 久

70年の歴史が閉じようとしています。先日、校歌を作詞された柳沢加九治先生の孫にあたる方が来校し、体育館の壁面に卒業制作として作製した校歌のレリーフの写真撮影をされていました。また、バスケットボール部の卒業生も来校し、1階の職員室の廊下に展示してある全国大会優勝記念の金のバスケットボールをいただいていた。OB会等で大切に保管するとのことでした。そして、いよいよ、閉校記念碑も完成し正門横の松の木の下に設置いたしました。

昭和22年の開校から平成30年3月まで17,657名が第三中学校から卒業してまいりました。私はこの歴史ある第三中学校が第十中学校と統合するという責任が重い仕事に携われることを誇りに思い、三中の校長として今日まで勤めてまいりました。昨年4月、最後の1年をスタートするにあたり、「皆さんで力を合わせて最高の中学校に築き上げ70年の歴史に幕を下しましょう。」と全校生徒に宣言しました。生徒は校長の思いを素直に受け止め1年間に渡り努力を積み重ね、とても良い学校へと築いてくれました。これも保護者をはじめ、地域の皆様のお力添えがあったからこそと感謝しています。生徒の努力と皆様のご支援の賜物の証として、新しい中野東中学校が開校した時には、この場所に素晴らしい中学校があったという伝説がおきていることと確信しています。

儀式行事で生徒が歌う三中の校歌を聞くたびに本校の副校長は「校長先生、三中の校歌はいつ聞いてもいい校歌ですね。」と必ず感想を伝えてくれます。三中生が歌うその素晴らしい校歌は3月23日(金)の閉校式が最後になります。

最後に音楽の時間に記入した三中生の校歌に対する思いを記載して学校だより最終号といたします。

1 番の歌詞・・・神田川のほとりの若草のように自然の中で伸び伸びと健やかに育って行ってほしい。

2 番の歌詞・・・歴史を大切にしつつ、日本の文化を誇りに未来を創造していく人になってほしい。

3 番の歌詞・・・高い理想をもち、文武両道に励み、人徳のある人になってほしい。

三中は閉校いたしますが皆さんの記憶の中に第三中学校をいつまでも留めておいていただければ幸いです。最後に感謝を込めて三中校歌を歌いましょう！

校歌

一

明るく広き 武蔵野の	柳 沢 加九治
紫におう 神田川	作詞
ほとりにもゆる 若草の	岩 河 三郎
緑さやけく すこやかに	作曲
のびよ三中 若人我等 若人我等	
のびよのびよ三中 若人我等	

二

その名もしるき 音滝の	
昔をしのぶ 螢火に	
香りも高く 日の本の	
文化の光 輝かん	
仰げ三中 若人我等 若人我等	
仰げ仰げ三中 若人我等	

三

堅き誓いに 手をとりに	
高き理想を 語りつつ	
学びに技に 秀でたる	
正しき人と ならめやと	
奮え三中 若人我等 若人我等	
奮え奮え三中 若人我等	

今後の主な予定

3月23日（金）修了式 閉校式
3月26日（月）春季休業（～4月5日）
4月 6日（金）中野東中学校前期始業式

4月 9日（月）中野東中学校入学式
4月12日（木）中野東中学校保護者会

1 学年校外学習

1 学年 赤木 健太

悪天候により延期になっていた校外学習が3月6日（火）に行われました。生徒たちには待ちに待った鎌倉校外学習です。当日は、肌寒い曇り空からのスタートでしたが、昼ごろから晴れて、穏やかな日差しの中、班ごとに計画した場所を巡りました。歴史的建造物を観たり、鎌倉の街並みや自然に触れたりすることで学校では得られない多くの事を感じられる一日でした。

「長谷寺の仏像や高德院の大仏はすごい迫力があつた。こんなに大きな仏像が今より前につくられているのに驚いた」という生徒や「古くからあるお寺や神社を見ながら、昔ここを武士が通っていたんだと思うと日本の歴史を感じた」という生徒もいました。



今回のスローガン

は「時間とルールを守って校外学習を楽しもう」というものでしたが、どの班も班員同士助け合っ規則を守るためにお互いに注意し合ったり、学んだり感じたことを伝え合っ楽しむことができていたようです。

道に迷ったときは不安だったけれど、地域の人に尋ねたり、協力したりして目的地にたどり着くことで達成感を味わえた、という班もありました。また、

写真を撮ってもらうために英語で外国人観光客の方をお願いしている班もあり、普段の授業が活かされているなと感じました。

事後に書かれた作文に、学校では気づかなかった班員の優しさや友達の良いところをたくさん知ることができた、校外学習は学校を背負っていることを自覚するきっかけになったので、校外でも正しい行動ができるようになりたい、仏像に見られていると思って日々の行動に気を付けたいと書かれたものもあり、皆さんが楽しみながらもそのようなことを感じ、考えられる人に育っていることを、とても嬉しく思いました。

日本の伝統文化に触れ、素朴な中にも力強さを感じさせる様々な建造物等の迫力を生で感じ、歴史や文化



に親しみ、見識を広めることのできた実りある校外学習となったことでしょう。今回、それぞれが班内での自分の役割を果たし、計画通り行動できたという達成感や、自らを振り返り、改善する必要のある課題をしっかり受け止め、今後の学校生活の中でも活かしてもらえればと思います。

3年生を送る会

生徒会 渡邊 達也

3月8日(木)に三中最後の三年生を送る会が行われました。これまでお世話になった3年生の先輩方への感謝の気持ちを表すために1、2年生は短い時間の中、一生懸命練習に取り組んできました。そして迎えた当日、昨年に引き続き校長先生の素晴らしい歌声を合図に三送会のスタートとなりました。



生徒会本部役員を中心に各種委員会の生徒で役割を分担することで、生徒主体で時間通りスムーズに会を進行することができました。有志発表では、吹奏楽部による演奏や毎年恒例の3年生への生徒会インタビュー、総勢100名を超える有志合唱団「三中歌い隊」による合唱が行われました。

後半の各学年による発表は各学年工夫を凝らした発表でした。1年生は代表生徒による3年生への感謝をメッセージで伝え、合唱「この星に生まれて」を行いました。2年生はスライドを使った3年生への学校にまつわるクイズ、部活動代表者による感謝のメッセージ、と合唱「時の旅人」を行いました。1年生も2年生も、3年生への感謝の気持ちが込められた温かい発表でした。3年生は代表生徒による先生たちへのインタビューを織り交ぜながら、この三中での思い出を語ってくれました。また、合唱「3月9日」と「在校生へのお礼の言葉」を行いました。感謝の言葉からは後輩へのこれまでの感謝、三中の伝統を中野東中へ引き継ぐ役目を在校生へと託す熱い思い、が感じられました。



三年生を送る会は、1、2年生にとって3年生に感謝の気持ちを伝えるものだけでなく、会を通じて3年生が卒業した後の自分たちが学校を引っ張って行かなければならないと改めて自覚をすることができる場でもあります。毎年この会を行うたびに学校全体の団結力が高まり、1、2年生は自分たちがやらなければならないという気持ちを持つ様子が感じられます。きっと来年度は、これまでの3年生が受け継いできた三中の伝統を中野東中へと引き継ぎ、十中とお互いの伝統を合わせながらこれまでにない素晴らしい学校としてスタートすること期待しています。

中野ランニングフェスタ2018

山本 裕樹

3月18日(日)中野四季の森公園でランニングフェスタ2018が開催されました。区立中学校の生徒は1.8km×5人の駅伝に参加します。本校では、年末に出場選手を募集し、有志15名、3チームで参加しました。

3年生の都立高校合格発表後の3月2日(金)に第1回ミーティングを行い、翌日3日(土)から練習を開始しました。入試のため勉強に集中する日々を送っていた3年生は、久しぶりのトレーニングに「思うように体が動かない。」「重くなったように思う。」と戸惑いながらも、真剣にトレーニングに励みました。1・2年生もそんな3年生の姿に刺激され、颯爽と校庭を走り、練習に取り組みました。一人ひとりが本番のレースを見据えて、校長先生の指導のもとトレーニングをおこないました。



チーム内の走順は各チームでの話し合いで決定しました。プレッシャーを感じてか、第一走者やアンカーを引き受ける生徒にはかなりの勇



気がいったようです。平日の朝練を含めて、土日も含め10日間のトレーニングを行い、レースに臨みました。

今年は三中最後ということで「三中」と刺繍されたハチマキとタスキを用意し、レースに臨みました。Aチームは赤のたすきを、Bチームは青のたすきを、Cチームは黄色のたすきをしっかりとつなぎました。また、走っていない生徒は応援に回り、熱い声援を投げかけていました。結果はAチーム6位（中学校では2位）、Bチーム17位、Cチームは38位と大健闘でした。

閉校記念芸能鑑賞教室

山本 裕樹

3月9日（金）の午後、全校生徒で梅若能楽学院会館へ行きました。私たちの身近にありながら、なかなか出向く機会がない場所で、多くの生徒が初めての鑑賞だったようです。当日は、重要無形文化財保持者（人間国宝）、中野区名誉区民である「梅若 実 先生」より「日本人として大切にしたい心」をテーマとした講演と、代表生徒7名の体験学習、能の鑑賞を行いました。体験をした生徒は実際の面をつけ、すり足の指導をしてもらいました。「視界がせまくとても難しかった」という感想が多く聞かれましたが、能の難しさと同時に楽しさを実感することもできたのではないかと思います。一時間という短い時間でしたが、日本の伝統芸能として長く受け継がれている能の魅力や奥深さ、日本人として大切にしたい心を学ぶ良いきっかけになったと思います。

帰国生対応

帰国担当 進藤 智成

本校は、昭和49年から平成13年の省庁再編に至るまで、旧文部省の帰国子女教育協力校として歩んできました。その後、中野区の帰国生徒受け入れ重点校としての指定を受けました。その指定が無くなった昨今も、皆様の口コミなどで紹介を受けた方々など、多くの帰国生徒からお問い合わせをいただき、受け入れを続けております。

本校入学後は、面接やアンケート調査などをもとに、できうる限りそれぞれの生徒の日本語能力に合わせた対応をしております。中野区国際交流協会（ANIC）から日本語支援指導員を派遣してもらったり、同協会主催のクラスに参加したり、本校教員による日本語の補充を行ったり、月に一回開催される放課後の国際交流教室に参加したりといったものです。

また、年3回の帰国生保護者会を実施し、学校での現状の報告を行ったり、保護者の方同士の情報交換、交流の場として活用していただいたりしております。特に進路に関しては、実際に学校見学に行かないと知りえない情報なども共有することができるため、とても貴重な機会となっているようです。

統合後も、できうる限り、こういった活動を継続していく予定です。



70年間 ありがとうございました。のびよ 揚げ 奮え 三中！永遠なれ！！